第6章 セルフ学習問題

1. 糖尿病大血管症

1) 糖尿病における動脈硬化症の特徴について記載してください。

Q1

2) 境界型と動脈硬化症の関連について説明してください。

Q2

3) 以下の文章の空欄を埋めてください。

- ・糖尿病は、冠動脈疾患の独立した危険因子であり、糖尿病患者は、発症頻度が（ Q3 ）倍である。
- ・脳梗塞の3大病型（ Q4 ）、（ Q5 ）、（ Q6 ）のいずれも糖尿病は、発症リスクである。
- ・糖尿病のみならず、（ Q7 ）型は、動脈硬化症にとっての直接の危険因子である。
- ・日本のメタリックシフトロムの基準の一つの腹囲は、男性（ Q8 ）cm、女性（ Q9 ）cm以上である。
- ・糖尿病の患者の LDL-C の目標値は、冠動脈疾患がある場合は、（ Q10 ）未満、既往の無い場合は、（ Q11 ）未満を目指す。

2. 皮膚病変

- ・糖尿病の皮膚病変は、糖尿病に特有な特異的皮膚病変（ Q12 ）と、糖尿病により増悪したりする非特異的皮膚病変（ Q13 ）に分類され、細菌感染症や真菌感染症などは、（ Q14 ）に分類される。

3. 糖尿病足病変

- ・糖尿病足潰瘍の成因としては、（ Q15 ）、（ Q16 ）、（ Q17 ）が上げられる。
- ・神経障害性潰瘍は、（ Q18 ）部位に、虚血性潰瘍は足の（ Q19 ）部に形成されやすい。
- ・特に、腎臓病変や心不全などを合併の場合は、浮腫を併発しており注意を要する。

4. 勃起不全 (ED)

- ・EDを訴える糖尿病患者の9割は、糖尿病性EDであるが、1割は心因性EDや（ Q20 ）である。

5. 骨病変

- ・近年の研究で、糖尿病が（ Q21 ）リスクを高める基礎疾患と認識されている。

6. 認知症

- ・2型糖尿病の認知症発症の危険度は、脳血管性認知症だけでなく、（ Q22 ）においても上昇する。

7. 歯周病

- ・2型糖尿病では、（ Q23 ）の発症や、歯槽骨吸収の進行のリスクが高まる。

8. 癌

- ・糖尿病と癌罹患リスクとの関連が明らかになってきており、わが国の解析では、肝臓がんで（ Q24 ）倍、膵臓癌で、（ Q25 ）倍となっており、糖尿病外来にても悪性疾患の合併に留意が必要である。

9. 非アルコール性脂肪肝

- ・（ Q26 ）が、将来の糖尿病発症の独立した危険因子であることが示されている。

10. 慢性合併症の成因

- ・高血糖が細小血管障害を引き起こす機序として、(1)（ Q27 ）経路の亢進、(2)ヘキサミン経路の亢進、(3) DAG-PKC 活性異常、(4)（ Q28 ）の亢進、(5)終末糖化物質 (AGE) -AGE 受容体系の亢進などが指摘されている。

- ・大血管症すなわち動脈硬化症の成因として、（ Q29 ）などの脂質異常症や AGEs が血管障害に関与している。最近では、食後過血糖と内臓脂肪、耐糖能障害、脂質異常症が集積した（ Q30 ）がその成因として、また、治療の観点からも重要となっている。